

## チーム「エコーセンター」5年間の実績

◎山田 裕香<sup>1)</sup>、井上 正朗<sup>1)</sup>  
碧南市民病院 中央検査室<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

当院では多数の超音波検査装置（以下装置）が設置されており、各診療科の装置は殆どが管理者不在の状態、更新も各科の希望で購入していたため台数が増えてしまった。そこで装置の「管理を一元化」して行き、「有効な運用と収益性の向上」を目的として、「エコーセンター」設立となった。設立5年を迎え、取組み成果を報告する。

## 【取組み内容】

- ① 適正台数の検討：検討基準は使用目的、必要性、使用頻度、収益の見込み、検査の集約が可能であるかとした。適正台数を検討する上で愛知県下公立病院の装置所持台数を調査した。
- ② 装置の現状把握と稼働状況調査：各科の事情と1台あたりの検査件数を考慮し、設置台数を検討した。削減にあたり、診療科部長に「廃棄」「共同利用」「更新装置の最適スペックやプローブ構成等」の提案をした。
- ③ 管理の一元化：装置購入や運用相談、故障等の対応をエコーセンターに集約した。

## 【結果】

- ① 当院は34台所持であるが10台程度多いと考えた。
- ② 8台削減でき、目標の26台になった。
- ③ 5年弱で約90件の故障、相談対応を行った。故障対応は報告書を作成し院内共有ファイルに保管して情報共有している。エコーセンター対応の事例には、診療科を越えて装置移動し対処できた事例、業者との連携対応ではエコーセンターの提案により、故障だが保守終了で修理できない2台の装置を1台復活させた事例もあった。

## 【まとめ】

エコーセンター設立により、装置を8台削減する事ができた。各診療科の要望通りに購入を続けていた事を想定すると、購入費用として約3000万円の出費を抑えられたと事務から報告があった。また、故障等の対応を一元化したことで、診療科の困り事を院内で対応でき、素早い解決に貢献できている。情報共有によって更新、廃棄のスケジュール管理も可能となった。

連絡先：0566-48-5050（内線：2315）